

大型クラゲの出現状況(国際フェリー調査結果等)について-第1報-

1. 大型クラゲの出現情報

(1) 東シナ海における調査船による目視調査結果^{※1}

①実施期間 令和5年6月19日～25日

結果 東シナ海西部の16地点での出現量(平均密度) 0.0039個体/100m²。

〔 昨年同時期の結果(0.041個体/100m²)より少ない。 〕

②実施期間 令和5年7月24日～29日

結果 東シナ海西部の8地点での出現量(平均密度) 0.003個体/100m²。

〔 昨年同時期の結果(0個体/100m²)より多い。 〕

(2) 対馬海峡における国際フェリー(博多-釜山航路)による目視調査結果^{※1}

① 実施期間 令和5年6月17日

結果 対馬海峡では目撃されなかった。

〔 昨年は対馬海峡東水道のみの目視調査であったが、同時期の結果(東水道で目撃されなかった)と同じ。 〕

② 実施期間 令和5年7月4日

結果 対馬海峡では目撃されなかった。

〔 昨年は対馬海峡東水道のみの目視調査であったが、同時期の結果(東水道で目撃されなかった)と同じ。 〕

③ 実施期間 令和5年7月18日

結果 対馬海峡では目撃されなかった。

〔 昨年は対馬海峡東水道のみの目視調査であったが、昨年同時期の結果(東水道で0.00170個/100m²)より少ない。 〕

④ 実施期間 令和5年8月1日

結果 対馬海峡では目撃されなかった。

〔 昨年は対馬海峡東水道のみの目視調査であったが、昨年同時期の結果(0.00058個/100m²)より少ない。 〕

- ⑤ 実施期間 令和5年8月22日
結果 対馬海峡で2個体(傘径70cm)を目撃した。対馬海峡における出現量(平均密度)0.00006個/100m²。

〔 昨年は対馬海峡東水道のみの目視調査であったが、昨年同時期の結果(0.00010個/100m²)より少ない。 〕

(3) 対馬海峡東水道における国内フェリー(博多-対馬航路)による目視調査結果^{※1}

- ① 実施期間 令和5年8月1日~2日
結果 対馬海峡東水道では目撃されなかった。

〔 昨年同時期の結果(0.00058個/100m²)より少ない。 〕

(4) 隠岐海峡における国内フェリー(七類-西郷航路)による目視調査結果^{※1}

- ① 実施期間 令和5年7月27日
結果 隠岐海峡では目撃されなかった。

〔 昨年同時期の結果(隠岐海峡では目撃されなかった)と同じ。 〕

- ② 実施期間 令和5年8月24日
結果 隠岐海峡では目撃されなかった。

〔 昨年同時期の結果(隠岐海峡では目撃されなかった)と同じ。 〕

※1. 国立研究開発法人水産研究・教育機構及び国立大学法人広島大学・東京海洋大学により構成される「大型クラゲ国際共同調査共同研究機関」が実施。

(5) 日本沿岸水域における出現の確認^{※2}

- ・令和5年7月10日に長崎県新上五島町船崎郷定置網で出現を確認した(同定済み1個体、傘径50cm):日本沿岸の定置網で今年初めての出現。
- ・令和5年8月21日に長崎県対馬市峰町志越定置網で出現を確認した(1個体、傘径70~80cm):対馬の定置網で今年初めての出現。

※2. NPO法人水産業・漁村活性化推進機構の委託を受けて、一般社団法人漁業情報サービスセンターがとりまとめた情報による。

過去に対馬の定置網で確認された日

平成21年 6月30日	}	日本沿岸水域で大型クラゲが大量出現した
平成22年 9月17日		
平成23年 9月29日		
平成24年 7月24日		
平成25年 7月26日		
平成26年 8月 6日		
平成27年 9月15日		
平成28年 6月28日		
平成29年 7月 5日		
平成30年 6月12日		
令和 元年 6月13日	}	日本沿岸水域で大型クラゲの大量出現が なかった年
令和 2年 6月16日		
令和 3年 6月15日		
令和 4年 7月12日		

2. 今後の調査計画等

今年は4年ぶりに対馬海峡における博多～釜山間の国際フェリーによる目視調査が再開されましたが、依然として東シナ海、黄海のフェリー目視調査は実施できないため、大型クラゲ発生海域の出現情報が大きく不足している状況です。東シナ海の調査船調査では、6月の出現量は昨年より大きく減少し、7月も少ない状況が続いています。対馬海峡（博多～釜山間）のフェリー目視調査は6月中旬から調査を開始しましたが、8月中旬の調査まで大型クラゲは1個体も確認しておらず、下旬の調査で少量初確認しました。また、隠岐海峡のフェリー目視調査は7月下旬、8月下旬の2回の調査とも1個体も確認していません。一方、韓国沿岸の出現状況は、6月中旬までは近年並に推移していましたが、それ以降出現の増加がほとんど見られず、近年では極めて低い出現状況で推移しています。以上のことから、今年の東シナ海における大型クラゲの発生量は昨年よりも大きく減少し、日本周辺海域への出現は極めて少量に留まっていると考えられます。

対馬周辺で8月下旬に少量の大型クラゲが目撃された情報を基に日本海における移動予測計算を行った結果では、大型クラゲは主に沖合域を北上し、10月中旬に少量の大型クラゲが津軽海峡に達することが予測されています。また、隠岐諸島以東の沿岸域にはほとんど出現しないと予測されています。

今後は、少ない出現傾向が続きそのまま収束していくと考えられますが、黄海で発生した大型クラゲが対馬海峡西水道から日本海に流入してくる可能性がありますので、引き続き日本周辺海域における大型クラゲの出現状況をモニタリング^{※3}し、出現状況に関する情報提供^{※4}を行ってまいります。

※3. 主な大型クラゲ出現状況調査の実施予定（9月上旬～9月下旬）
（調査船による分布調査）

令和5年9月上旬～中旬：日本海大型クラゲ分布調査
(国内フェリーによる目視調査)

令和5年9月上旬：博多－釜山間の国際フェリーによる目視調査

令和5年9月上旬：舞鶴－小樽間の国内フェリーによる目視調査

令和5年9月下旬：博多－釜山間の国際フェリーによる目視調査

令和5年9月下旬：舞鶴－小樽間の国内フェリーによる目視調査

※4. 大型クラゲ出現状況調査の結果については、以下でお知らせしております。

国立研究開発法人水産研究・教育機構

大型クラゲ情報 URL：<https://www.fra.affrc.go.jp/kurage/>

最新情報 URL：https://jsnfri.fra.affrc.go.jp/Kurage/kurage_top.html

本件照会先（担当者）：

水産資源研究所 企画調整部門 亀田・瀬藤 TEL 045-788-7970/7676

水産資源研究所 水産資源研究センター 海洋環境部 渡邊 TEL 025-228-0587